

「人生大掃除」

坂口 裕靖

「あーどもども」「お、どもども」「けまして」「はいはい」「なんとか無事に年も越せまして」「無事だったの？そりゃ良かった」「ええ、ええ」「でもほら、今度は確定申告とかで大変なんじゃないの？」「そうですね、そろそろそんな季節です ... そういえば聞きました、アレ？」「ん？アレ？ ... 何？」「xで」「え ... えっくす？」「ほら、アレですよ、formerly and commonly referred to as Twitter」「あ、ついたね」「そうですね、なんか税金に関する怖い話読んじやったんです」「ほうほう」「まここでは仮に ... 9/2さんとでも呼んでおきましょうか、ご迷惑かけるといけないので」「ご迷惑？なんで？あっ!? この会話録音してたりするの？公開するの？」（してます ...）「いやまあ、色々ありまして」「でなに？9月2日？」「いや二分の九さんですね。ま細かいところは置いて、なんかいきなり役所から『住民税払って！今すぐ払って！早く

早く早く払って！うわああああん!!』って、真っ黄色な督促状が送られてきたんですって」「ふーん。そりゃ税金収めないというふうになりそうだね」「ところがですね、9/2さんには全く心当たりなかったんですって。給与明細を見る限り、税金も社会保険料も天引きされてるし、収めてるはずだと。」「ふーん。そりゃ変だね？」「でしょう？で、9/2さんも役所に行って聞いてみたところ、全然払われてないって言われたんだそうです。そこで突っ込んで調べてみたところ、やっぱり何年かに渡って支払われてないと」「えっ ... 給与明細で天引きされてるのに？」「そうなんですって。

そこで会社の方とすったもんだやりとりしたところ、天引きしてるけど払ってなかったってことが分かって、その額数百万という「うわっ ... そんなのいきなり請求されたら死んじやうよ」「ですよー。あまりに怖い話です ... こんでもって、こういった、

わざと税金払わないで誤魔化してる会社、増えてるそうですよ」「怖い怖い ... ウチは大丈夫かいな」「これねー、難しいですよねー。ちゃんと調べるとしたら納税証明書とか取るしかないみたいですが、最悪会社がかバックしたら自分が背負わなきゃいかんという恐ろしい状況」「なんかそういうのさー。なんかこう ... 寂しいねえ」「バックオフィスが信用できなくなったら、組織体として活動している意味ないですもんね」「いやほんと。

世知辛い世の中だねえ」「ええ。 ... ま、それはそれとして。最近フォトショって使ってます？」「ん？いや、基本関係ねえからさ、使ってない」「なんかほら、年の瀬で年賀状とか作ろうと思うじゃないですか。そしたらフォトショでなんかするじゃないですか。んだもんで、フォトショの2024ってやつ、バージョンは25なんですけどね、とにかく起動してみたんすよ」「ふーん。何か変わる

One Point BUZZ WORD

会心のきざし

先月は山パンに対してデブの心をわかって欲しい旨書き連ねたわけですが、12月に入りいきなりデブの心を驚掴みにするホイップクリーム物が出てきました。その名前は「クリスピーサンホルン（いちごミルクホイップ）」。サクサクのホルンの中に、いちごミルク風味のホイップが充填されてる商品で、ホイップクリームが山パンにしては驚きの量充填されて大満足。山パンのホイップクリームといえば、大抵は痕跡程度、良くてマイクロメーターオーダーの量しか塗布されてないので残念なのに対し、クリスピーサンホルンの量はなんと大さじで測れるほどの量が入っている。というか、商品棚に並ぶイチゴスペシャル数十個分のクリームがたった一つのクリスピーサンホルンに詰め込まれているような塩梅で、デブ目線では大変喜ばしい。そうそう、こう

いうのがいいんだよ。食べたいのはクリームであって、パンはそれを保持するに足る最小量で良いんです。パンの方を食べたかったら、そっちの選択肢はたくさんあるわけなのだから。その意味ではもう少しホルンは薄くなってもいいような気もしなくはないが、長期間棚にあったとしてもサクサク感が失われないためには必要不可欠な厚みなのかもしれない。底面部分がちょっとべったらべたらしてて、どうしても手が汚れやすい。さらにサクサク生地なのでポロポロと破片が飛び散る問題もあるのだが、ここいらへんは痛し痒しという所だろうか。トータルとしては十分な量のクリームを安定して保持するという意味において、あのサクサクなホルンは大変よく機能していると言える。

これは明らかに良い方向だとは思うのだが、まだまだできることはあるはず。生洋菓子だとカバンに潜ませることはできないが、菓子パンであれば、安定して保持できと期待できる。いざという時に備えるためにも、ぜひともこの路線の拡大・充実が望まれる。



ったの?」「知りません!」「あらっ...」「ま、今まで通りの機能が今まで通りに使えてたら良いじゃないですか。新機能、探求するほどのヘビーユーザーでもないし」「ま、そりゃそうだよね」「なんです。でね、試しにちょっと切り抜きしてみたんですよ。サイズ的には4kx3kぐらいのスマホのjpegですね。ほいでもって『被写体を選択』させてみて、当然失敗する部分が出てくるので、そいつを別レイヤーに持って行こうとしたらいきなり「ほう」「『すまん、仮想記憶ディスクの容量が足らんから何もできん、詰んだ』という意味合いのメッセージが」「詰んだ?」「そう、詰んだ。っていうかですね、『プレビューの生成に失敗しちゃった、テヘ』とかなんか悲惨なメッセージが矢継ぎ早に表示されるんですよ。仕方ないから同時に開けてたファイルを閉じて、編集中の画像は一旦保存して、ファイルを閉じて、それでやっと環境設定へ行ける感じでした」「なかなか切羽つまってるね」「まあ古いノートパソコンだから、メモリも8GBしかないし、500GBのSSDものこり4GBとかな状況だったわけです」「あーいるよね、そういうの。なんかこう、溜まっちゃうんだよね...なんていうの、人生の澱(オリ)みたいなやつ?」「そうなんですよー。普段フォトショとか起動してないから余計ですよね」「んでどうしたの?あれじゃないの、USBかなんか刺してそっちをテンポラリにすればいいんじゃないの?」「それ!!!。そう、それなんです!言いたかったのはっ!!!『仮想記憶ディスク』って言うんだから、なんかこうストレージならいいだろと思うじゃないですか。違うんだな、これが」「ん? そうなの?」「そうなんですよ。多分まあパフォーマンスの問題とか動作保証の問題とかがあるんでしょうけど、USB経由で接続

したストレージを仮想記憶領域として指定できないんですわ」「...なんと!!」「ノートパソコンなんで、メインストレージ以外領域として指定できないんですわ。そんでもって動作条件に『最っ低でも50GB用意しといて、フフフ』とか書いてやがんです」「ほお」「フォトショのくせに生意気だこん畜生。そうなると取れる手は一つですわ。人生の澱をドブに捨ててスペースを作るしかないわけです」「あちゃー...それってさ、今まで人生の中で後回し、後回しにしてきた作業を今、この場所でやりきらなきゃ行けないってことじゃないの...!!」「そうですよ!しかもたかが年賀状ですよ!全世界でせいぜい数家族しか送らない上に、それらのご家族も見るかどうかわからない、年に1ビットの『まだ死んでません』っつメッセー지를送るために、人生の総決算をしなければいけなくなっただんですよおおお!!」「...うん...まあ、面倒だよな...アドビってそういうとこ、あるよね...」「まあそもそも、現状ノートパソコンでいじる前提じゃ考えてないって事なんでしょうけどね。でまあ、仕方なく現時点で人生のドブサライを始めただけです。

今必要なのは、500GBのSSDで50GBの残領域を作り出すこと。着手時点の残領域は4GB程度なので、46GBぐらい削除する必要があるわけです」「んー...でかいファイルがあれば楽勝そうだけどね、そうじゃないんだらうな」「そうじゃなかったです...そもそもですね、どのディレクトリを着手すべきかわからない。ディレクトリごとの容量を表示してくれるfilesumってのがあるんですけど、これをCドライブにかけたら戻ってこない戻ってこない...」「ちなみにそのパソコン、何年ぐらい使ってるの?」「へ?...覚えてな

いですね...ちょっとまってくださいよ、裏を」「うわっ」「失礼、...型番から見るとこれ、2016年発売みたいですわ。確かこれ、新発売を狙って買ったはずなんで、そうすると7年物です」「ふむ。わんこの一生分、人生をドブに捨てないといけけないのか」「もうね、地獄です。filesumには、指定したディレクトリ以下だけ調べる機能があるので、これを使ってまずはホーム以下にどれくらい溜まってるのか確認したところおよそ170GB。

もうね、げんなりですよ...まずはムービーの素材とかを片っ端から移動させて、そんでもってAppData/Local/Tempの削除できそうなやつを削除して、他にもc:\tmpとかにも溜まりに溜まった澱を整理したところ、なんと合計96GBぐらい空き容量を作ることができました!拍手!!パチパチパチ!!

「それはそれは...」「もうね、捨てたファイルも移動したファイルもその殆どが記憶の片隅にも残ってないやつですよ。ひたすらでかいディレクトリから削ってだけです。まあノルマの50GBは超えたので、今回のところはこれでいいかと。いうわけで、結局年賀状は元旦に届くタイミングで送り出すことができませんでした。これすべてアドビの陰謀!「まあね、遅くてもいいから、とりあえず使えるといいんだけどね」「ですよー」「ところでさ、これって...何?」「へ?」「もしかして、新年...の?」「あ。今年もよろしゅうお願いします(拝)」

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.